

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲

2025
1月
No.128

 兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより



[診療科紹介] 病理診断科



病院屋上からの眺め 表紙写真撮影者/総務部 T.A.



- [AGMCニュース] AGMCの冬の行事食
- [ぶらり〜っと病院探訪] 小児病棟プレイルームのご紹介
- 引き続き、不織布マスクの着用について
- セミナーのご案内

院長 新年のご挨拶

謹賀新年

令和
七年

兵庫県立尼崎総合医療センター
院長 平家 俊男

本年、おかげさまで10周年を迎えます

「兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）」は本年7月に、開院10年を迎えます。これもひとえに、地域の皆様の多大なるご支援のおかげであり、心から感謝申し上げます。「AGMCが目指すこと」3項目は、統合当初から引き続き(1)本格的な地域完結型医療の推進・充実！(2)医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院！(3)量から質へ！です。この10周年を機に職員一同でいま一度反すうし、新たな気持ち・視点で、医療に従事してまいります。

新たに推進する“ブランディング”とは

この10年で築きあげてきた診療の立ち上げ、組織インフラストラクチャーの整備に続き、これからは新たに本院のブランディングの確立、認知の拡がりを強化してまいります。本院の考える“ブランディング”とは見せ方を素敵に整える、良いイメージを醸成する、といった表面上のことを指すものではありません。本院を受診して頂いた患者さん・ご家族様が、新たに受診の必要が生じたとき、真っ先に本院を選んで頂ける病院になるということ。入院中ストレス少なく過ごすことができ、合併症もなく、栄養状態も良好に保って退院でき、その治療成績も優れている……というような、多方面からの医療の質を高めることで「選ばれる」病院になるということです。これは、地域の医療機関の皆様からも同様です。そのために医療やサービスの質をさらに向上させることはもちろん、患者さん・ご家族様、地域の医療機関の皆様、地域社会に向けて、正しく、わかりやすい情報を発信していくことにも注力してまいります。

本格的な地域完結型医療の推進・充実／量から質へ

本院の役割は、尼崎市のみならず人口約175万人の阪神医療圏＋約45万人の大阪市西部地域の医療・介護全体と連携・協調し、日本に誇れる質の高い高度急性期・高度専門・先端・政策医療の部分を担当することです。充実した各診断・治療設備、約2年前に再整備した患者サポートセンター、がんセンターなどの資源・設備をフル活用し、高度専門医療、外来・入院・退院・転院・在宅・介護全体を見渡す「PFM(patient-flow-management)」の充実、医療安全、職場環境、患者さんへのコミュニケーションの質の向上等、様々な面での質的充実を一層進めてまいります。

医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院へ

柔軟な組織運営には、マネジメント・サービスが必要です。職員全員が各部門での当事者意識とともに病院全体の視野も入れて、どのような取り組みがマネジメント・サービスの向上につながるか、知恵を出し合っています。また、職員にとっても「働きたい病院」「働きやすい病院」「働きがいがある病院」を目指し、職員の「働き方」の改善にも力を注いでまいります。

この10年をステップに、未来へ

AGMCが誕生してまもなく10年。慢心せず、この10年を新たなステップとして、医療者側からはもちろん、患者さん・ご家族様側から見た際にも質の高い医療の実践を追求してまいります。新しい10年への歩みを進めていく本院に対し、あたたかいご支援とともに叱咤激励をよろしくお願い申し上げます。

病理診断科

病（やまい）の
理（ことわり）を診る

病理診断科が扱う病理学は長い医学の歴史とともに存在し、病気そのものの形態的变化を観察・診断する臨床医学の側面とその病態・病因を研究する基礎医学の側面を併せ持つ、欠かすことのできない分野です。組織や細胞を採取して調べる必要がある疾患に関して、ほぼ全科の患者さんの診断に関わります。

構成メンバー

病理診断科部長

山本 鉄郎

- 日本病理学会専門医・指導医・評議員
- 日本臨床細胞学会専門医・指導医
- 死体解剖資格
- 臨床研修指導医

病理診断科専攻医

辻村 万莉奈

- 日本病理学会専門医
- 日本臨床細胞学会会員
- 死体解剖資格

病理診断科専攻医

大江 巧人

- 日本病理学会会員
- 日本臨床細胞学会会員

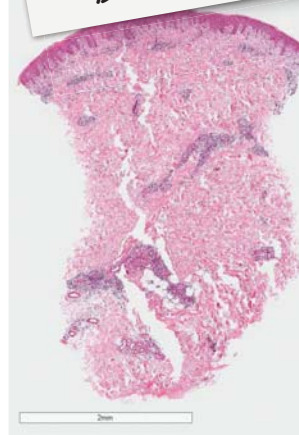
病理診断科医師3名、

臨床検査技師11名（細胞検査士9名を含む）、秘書1名

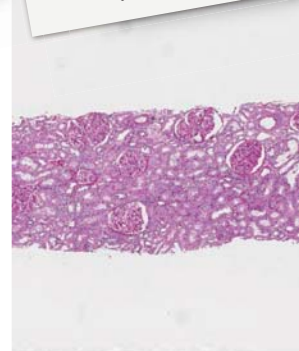
提供する活動内容

当科が担う主な診療は、病理組織診断、病理細胞診断、術中迅速診断、病理解剖、セカンドオピニオンです。病理検査は肉眼的観察や顕微鏡を使って患者さんの臓器・組織や細胞を詳しく調べ、病気の診断名を確定するために非常に重要な検査です。病理検査室では、組織や細胞を薄く貼り付けて染色したプレパラートと呼ばれる顕微鏡観察用標本を作製します。それらを病理医が顕微鏡で見て診断を行い、主治医に結果を報告します。

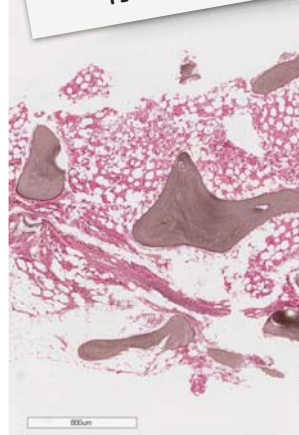
皮膚生検



腎生検



骨髄生検



子宮頸部細胞診



患者さんや 地域医療機関へのメッセージ

病理医が直接患者さんと対面することはほとんどありませんが、多種多様な疾患が集まる当院でも、精度の高い診断・迅速な対応を心がけたいと考えています。





AGMCの冬の行事食

クリスマス

みなさんは「病院のごはん」というと、どんなイメージをお持ちでしょうか？
当院では、治療効果はもちろんのこと、行事食や季節メニューを取り入れながら、おいしく楽しい給食を目指しています。

冬はクリスマスや年末年始など、彩り豊かな行事食が盛りだくさんです。
さらに、患者さんの満足度向上を目的とし、年に2回アンケート調査を行い、日々献立の改善に努めています。
入院生活の中で少しでも楽しみや安らぎとして感じていただけるよう、厨房から心をこめて提供しています。



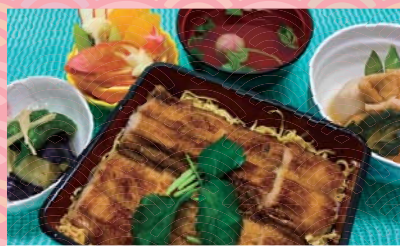
大晦日の一品



お正月の一品



「今週の献立」を
当院ホームページで公開中!



あなご御膳(選択食)



たこ焼き(アラカルト食一例)

広報委員が院内取材してレポート!

ぶらり〜っと
病院探訪

小児病棟プレイルーム

小児病棟プレイルームに 新しい仲間が加わりました!

小児病棟プレイルームに新しい仲間が加わったという知らせを聞いたので訪ねてきました。こちらを向いているのはコミュニケーションロボットLOVOT(ラボット)の「ちゃちゃまる」ですが、その横に新しい仲間が姿を見せています。



愛称は院内の
投票にて
「ちょこまる」
に決定しました!



これからも「ちゃちゃまる・テリー・ちょこまる」が入院中の子どもたちやそのご家族、医療スタッフに癒しを届けていきます。

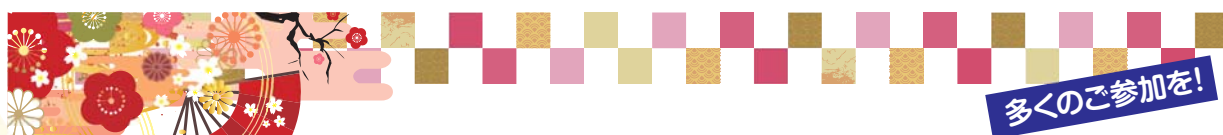


お知らせ掲示板



引き続き、 不織布マスクの着用について

重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、**院内では引き続き、必ず不織布マスクを着用**いただきますよう、みなさまのご理解とご協力をお願いします。



多くのご参加を!

セミナーのご案内 第82回市民すこやかセミナー

予約不要
参加費無料

骨粗鬆症の話題 ～骨折して寝たきりにならないために～



【日時】令和7年2月28日(金) 午後2:30～3:30

【場所】県立尼崎総合医療センター 1階講堂

【講師】県立尼崎総合医療センター 整形外科部長 和田山 文一郎
薬剤師 藤井 恵太

お問い合わせ

県立尼崎総合医療センター患者サポートセンター

TEL.06-6480-7000(代表)



編集後記

1月23日は「いい(1)ふ(2)み(3)」の語呂合わせで電子メールの日らしいです。日常は電子メールを業務で使うことが多いのであまり「いいふみ」を受け取った記憶はありません。やはりハガキや封書で受け取った方が気持ちがこもっている気がします。ただ、相手に思いや考えを伝える手段としては同じなので新年を迎えたこともあり気持ちを新たに「いいふみ」とまではいなくなるともせめて相手を不快にさせない気遣いは忘れないようにしたいと思います。(T.I.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町2丁目17番77号 TEL.06-6480-7000(病院代表) FAX.06-6480-7001

URL:<https://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索